

H 中世の秋田と佐竹氏をひも解く～東大史料編纂所協力～

日	時	テーマ	講師
H1	9/21 (土)	『秋田藩家蔵文書』から見る仙北小野寺氏	東京大学史料編纂所 准教授 金子 拓 氏
H2	10/19 (土)	安藤・秋田氏と『秋田家史料』	東北大学大学院文学研究科 教授 柳 原 敏 昭 氏
H3	11/16 (土)	奥羽の戦国大名と佐竹氏	淑徳大学人文学部歴史学科 准教授 遠 藤 ゆり子 氏
H4	12/21 (土)	戦国時代の佐竹氏	大正大学文学部歴史学科 教授 佐々木 倫 朗 氏

東京大学史料編纂所の共同研究に協力する研究者が、秋田県や佐竹氏に関わる史料に基づく研究成果を直接県民のみなさんにお伝えする講座です。最先端の歴史学の成果にふれるまたとない機会です。

H 1 9月21日(土)

『秋田藩家蔵文書』から見る仙北小野寺氏 東京大学史料編纂所 准教授 金子 拓 氏



なぜ改易された小野寺氏の歴史が分かるのかについて、小野寺氏の所領をその後支配した佐竹氏（秋田藩）における修史事業（自らの歴史を編む作業）と、そこにとどまって暮らした人々の営為と見て、解説いたしました。

『秋田藩家蔵文書』未収の旧臣文書や今も原本が伝わる家の文書などについても史料を元にお話ししてくれました。参加者から、「興味深く拝聴しました」「もっとたくさんの方に聞いて欲しい講座である」等の感想が寄せられました。



H 2 10月19日(土)

「安藤・秋田氏と『秋田家史料』」東北大学大学院文学研究科 教授 柳原敏昭氏



初めに、安藤・秋田氏が鎌倉時代、室町時代、そして戦国大名から近世大名へと変わった背景を解説しました。また、安藤・秋田家は特異な系図の持ち主であるという安日（あび）祖先説があるとのこと。受講生のみなさんは「わかりやすい解説である」と感心していました。

次に、近世大名三春藩秋田家に伝わった古文書を中心とする史料群である『秋田家史料』がなぜ東北大学附属図書館にあるのかを解説しました。「タイトルからは想像を超える話で、歴史家の先生たちの日々の努力に感謝の気持ちでいっぱい」との感想がありました。



H 3 11月16日(土)

「奥羽の戦国大名と佐竹氏」淑徳大学人文学部歴史学科 准教授 遠藤ゆり子氏



常陸国の佐竹氏が南奥羽の戦国大名として影響力を増していった背景を、豊富な史料を元に解説してくれました。南奥羽諸氏と佐竹氏の間には婚姻関係が多数あり、それにより勢力を広げていったことがうかがえました。南奥羽における佐竹氏の進出を支えた、佐竹義重夫人（伊達晴宗の娘）の存在にも触れ、女性の活躍が歴史において重要なことを伝えてくれました。

「一步間違うと戦になりかねない様な時代、大変な神経を使って近辺の諸国とやり取りしていたことがわかりました」「秋田に来る前の佐竹氏の歴史について知ることができ、大変ありがとうございます」等、沢山の感想が寄せられました。



H 4 12月21日（土）

「戦国時代の佐竹氏」大正大学文学部歴史学科 教授 佐々木倫朗氏



常陸国（茨城県）太田を拠点としていた佐竹氏は新羅三郎義光の末裔で平安以来の伝統的豪族であることから話は始まり、南北朝期の佐竹貞義から常陸国守護職を獲得し、以後、戦国期まで継承したことや佐竹義篤が室町幕府の侍所の所司を一時期務めたことなどを解説しました。

常陸大掾氏や小田氏、佐竹氏の3氏が鼎立する状況であったことは、興味深い話でした。また、山入氏が滅亡（1504年）し、長く続いた対立の終結を迎え、佐竹宗家の地位の確立を得たことなど、歴史研究家としての佐々木氏の話に受講者は聞き入っていました。

佐竹義重期の特色は、反北条氏連合の盟主であり、南奥羽では佐竹・蘆名氏連合を形成し、関東北部から東北南部にまたがる広大な勢力圏を形成したこととまとめました。戦国末期は、北条氏と伊達氏と対する二正面作戦に出て、義重から義宣への交代を経て、豊臣政権・小田原合戦へとつながる話は、壮大な歴史ロマンを感じさせました。

